



米子市埋蔵文化財センターたより



第14号

2014年9月

越敷山古墳群の調査 - 千号演習の塹壕跡を確認 -

今年の夏は雨が多く、天候に恵まれませんでした。発掘調査をするものにとって涼しい夏は大歓迎です。今年度調査を行っている越敷山古墳群の調査も、秋を迎えていよいよ大詰めとなりました。現在までに判明した遺構は、方墳2基と横穴式石室1基、そして、丘陵上に夥しい数の石棺墓群が存在することが明らかとなりました。これまでに確認した数は20基ほどですが、まだまだ増えそうな予感がします。こうした石棺墓の中には、直径4mほどの周溝を持つものもありますが、主体部上の盛土はほとんど無く、調査前から露出していたものもありました。時期は古墳時代中期から後期にかけてのものと考えていますが、鳥取県西部地方では、このような群集墳の類例がないため、これからもう少し範囲を広げて調べてみたいと思います。

ところで、調査前の伐開をした段階から、丘陵の尾根をまたぐように廻る溝が2条伸びていることが確認されていました。この溝は、全長60m程が調査区内にかかっており、迷惑なことに方墳の墳丘コーナ一部を丸く削り、東側で二つに分岐しています。深さはせいぜい1mほど、底部の幅も40cm程度のものです。一見すると弥生時代の環濠のようにも見えますが、古墳を壊していることから、新しい遺構であることは明らかです。越敷山一帯は、第2次大戦末期に本土決戦の防衛線として指定され、「千号演習」という陣地構築が行われていました。三年前に実施した伯楽塚遺跡の調査でも、大規模な塹壕跡を確認していましたが、今回検出した遺構は、掘り込みが浅く、また小さいながらも土塁を持つなど、より実践的な塹壕との印象を抱かせるものです。ただし、こうした塹壕は単独で使用される事例はまれで、高射砲陣地やタコツボなどの戦闘施設を繋ぐための連絡用の塹壕の可能性があります。丘陵の先端部にある古墳のすぐ手前を通過していることから、この古墳の上に高射砲陣地などの施設を作る予定だったのでしょうか。それを示すように、東側の塹壕は掘り込みが浅く、岩盤層の上で掘削が止まっていることから、構築途中で終戦を迎えたのかも知れません。(佐伯)



丘陵を巡る「千号演習」の塹壕

発掘調査情報

中世遺物の整理進行中 一観音寺狼谷山遺跡一

昨年度に調査した観音寺狼谷山遺跡では、古墳のほかに郭状の平場や柱穴が発見され中世城跡の遺跡であったことが判明しました。本遺跡の尾根続きの山稜には戸上山城跡が所在するため、発掘された城跡遺構は戸上山城跡の一部と考えられるものです。郭状の平場からは少量ですが、叩き目甕片、焼締陶器片、青磁片、土師器皿、鉛弾、つぶて石などが検出されており、15世紀～16世紀の時期の遺物と考えられています。確実に遺構に伴っていたものは、掘立柱建物跡の脇から出土した沢山の土師器皿で、一括して土坑に捨てられていました。そのため、この土坑と掘立柱建物跡は16世紀の時期と考えられます。また、平場の各所から点々と握りこぶし大の河原石が、計116個検出されており、戦闘用のつぶて石と考えられるものでした。山の上から投げ降ろされる石の威力は絶大で、弓や鉄砲のほかに有効な飛び道具として利用されていたようです。(小原)



左 廃棄土坑の土師器皿の一部



右 つぶて石の一部

整理室たより

整理室では、センターに寄贈された報告書などの考古学関係の図書資料の整理に追われています。

毎年、全国から送付されてくる発掘調査報告書に加え、退職された白石教授や、近年亡くなられた大森隆雄氏の考古学関係の寄贈図書が大量に持ち込まれました。その中には貴重な書籍もあり、かつては古書店で高価な価格で引き取られていましたが、今では専門的な古書は引き取り手がないのが実情です。

センターでは、これらの図書を今後、市民や研究者に利用してもらう為に整理保存しています。



持ち込まれた寄贈図書の一部

米子市街の東 8 km の米子市尾高の丘陵に所在する遺跡で、北側丘陵には三重の環濠に囲まれた集落跡が、南側丘陵には四隅突出型墳丘墓を含む墳丘墓群が確認されました。環濠は丘陵頂部を鉢巻状に巡り、内部に竪穴建物跡十数棟や集石遺構、袋状貯蔵穴などが確認されています。環濠遺構の時期は弥生時代後期前葉～中葉（2 世紀）頃と考えられます。また、墓群は四隅突出型墳丘墓と円形墳丘墓、方形墓 3 基の計 5 基が確認され、丘陵頂部の 1 号墓は四隅突出型墳丘墓で長軸 9,7 m、短軸 7,1 m、高さ 0,85 m



尾高浅山 1 号墓

を測り、墳丘に河原石を 4～7 段貼り墳裾に列石を巡らしています。主体部は未調査ですが墳裾の出土遺物から後期前葉と推定されます。尾高浅山遺跡は、試掘調査のみのため遺跡の全容は不明ですが、淀江の妻木晩田遺跡によく似た弥生時代の遺跡で、伯仙地域の拠点集落と首長墓の遺跡と考えられます。

コラムー古墳を掘る②

中期古墳 —新山山田古墳群—

1989 年に国道 180 号バイパス工事に伴い、米子市新山地内の山田古墳群、山田遺跡、研石山遺跡が発掘調査されました。

山田古墳群は尾根上の 7 基のうち 6 基の古墳が調査され、いずれも径 6～11m 前後の小さい円墳でした。埋葬施設は木棺で副葬品は多くありませんでしたが、周溝から土師器の坏や壺、須恵器の甕、埴輪などが発見され、古墳時代中期後半



新山山田 3・4 号墳

（5 世紀後半）の古墳群であることが分

かりました。古墳時代中期は大きな古墳が盛んに造られた時期ですが、山田古墳群の古墳はいずれも小さいものでした。しかし山田 7 号墳からは「珠文鏡」という小型の鏡が副葬されており、この古墳に埋葬された人物は新山地区の小平野を基盤とした首長の墓であったと考えられます。

センター・資料館日誌

- 7月2日 インターンシップで米子南高校の生徒3名を3日間受け入れた。
- 7月3日 県史編纂室の湯村氏が資料調査で来館された。
- 7月30日 安来市の尾崎しげ子氏から、故大森隆雄氏の蔵書・遺物が寄贈された。
- 7月23日 市内のなかよし学級へ出前講座「古代体験・勾玉づくり」を開始した。加茂なかよし学級皮切りに開始。



加茂なかよし学級勾玉づくり

- 7月24日 米子市文化財団施設連携事業「こども夏休み体験ツアー」が埋文センターで勾玉づくり体験を行った。大分市教育委員会の塩地氏が編籠資料調査で来館された。
- 8月8日 米子市文化財団施設連携事業「こども夏休み体験ツアー」が福市資料館で火起こし体験を行った。
- 8月11日 インターンシップで鳥取大学医学部生1名を5日間受け入れた。
- 8月18日 インターンシップで国立米子高専生1名を5日間受け入れた。
- 8月22日 なかよし学級へ出前講座「古代体験・勾玉づくり」を21学級目の福生東なかよし学級で終了した。

- 8月24日 考古学講座第2回「南部町境の遺跡群について」を開催した。



考古学講座第2回

- 9月1日 インターンシップで鳥取環境大生1名を5日間受け入れた。
- 9月4日 京都大生・鶴木氏が木器調査で来館。
- 9月5日 佐伯主任が古代出雲博物館開催の木簡学会へ出張した。
- 9月13日 米原子供会が福市資料館で古代体験を行った。
- 9月23日 西福原・米原地区の石造物ウオークを開催した。

編集後記

今年の夏は、蒸し暑さと雨とのたたかいでした。なかよし学級の子どもの元気な姿に励まされて、乗り切った夏でした。

発行日 平成26年9月24日
発行者 米子市埋蔵文化財センター
指定管理者 (一財) 米子市文化財団
電話 0859-26-0455
Eメール yonagomaibun@clear.ocn.ne.jp